

今・未来

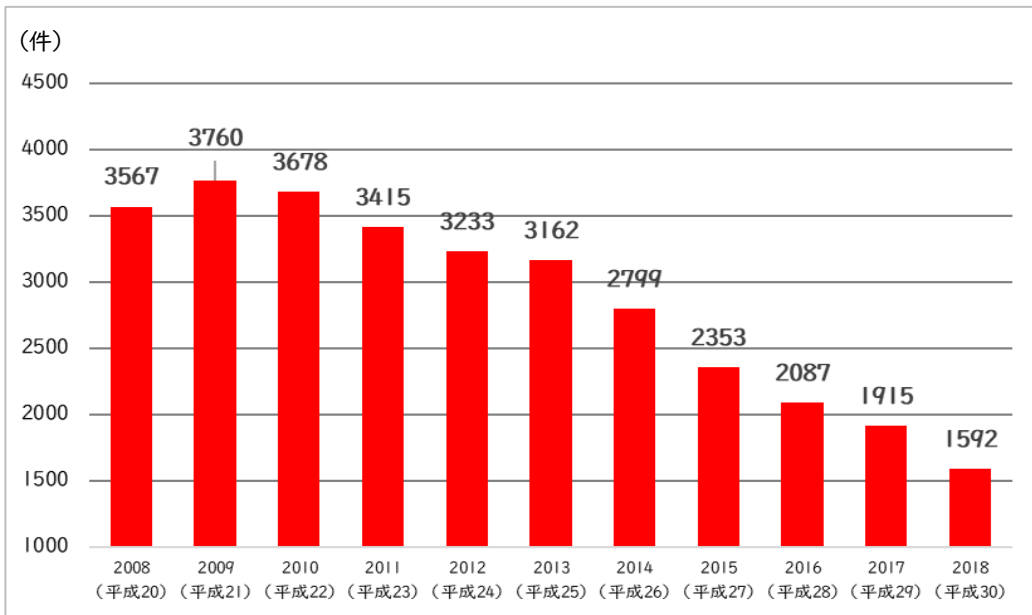
交通事故から暮らしを守る

1 交通事故の様子

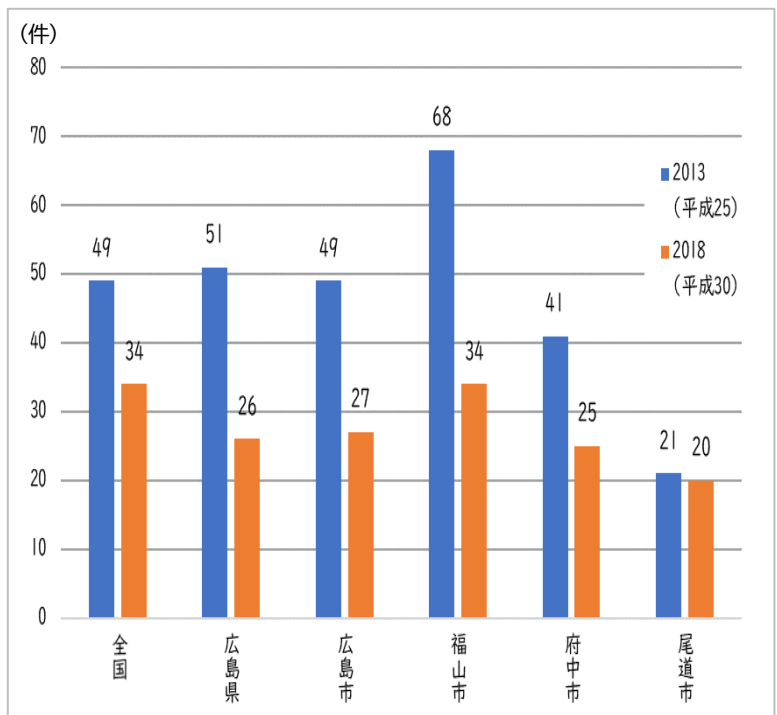
福山市には、3つの警察署があります。芦田川より東側は東警察署、西側は西警察署、そして、市の北側を北警察署が受け持っています。

市内には、国道2号線や182号線、313号線、486号線が通り、道路網も整備されて、便利になっています。

ここ数年、交通事故の数は減ってきていますが、2018年（平成30年）には福山市内で交通事故が約1600件も起こり、13人の方が亡くなっています。



〔市の交通事故の数〕



ひさん
〔悲惨な交通事故〕

〔人口1万人あたりの交通事故の数〕

2 交通事故が起きると

交通事故が起きると、110番へ電話をかけます。110番は広島市にある県警察本部の通信指令室につながります。通信指令室の係の人は、すぐ事故の起きた場所の近くの警察署、交番、近くを走っているパトロールカーに無線で連絡を取ります。そして、連絡を受けた警察官は、事故の現場にかけつけます。けがをしている人がいる時には、消防署にも連絡を取り、救急車が出動します。車が燃えている時には、消防車が出動します。

現場についての警察官は、事故の起きた原因を調べたり、他の車のじゃまにならないように交通整理をしたりします。

交通管制センターって、どんな役割をしているんだろう。



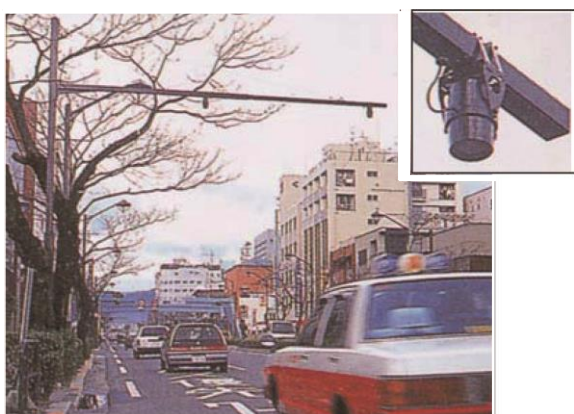
3 交通管制センター

朝や夕方は、福山市内に入ってきたり、福山市から出て行ったりする車の数が、特に多くなります。

そのため警察署では、主な道路のどの辺りの信号に、どのくらいの車の数が止まっているか、交通事故が起きている所はないかなどの情報を、交通管制センターに集めます。

それをもとにして、多くの車が信号で止まっている時には、その信号の変わる時間を短くして、車の流れをよくします。

また、ラジオ放送を利用して渋滞じゅうたいの起きている所や、通行止めの場所などの交通情報を流しています。



センサーで、車の数が分かります。



新しい交通情報をドライバーに知らせます。

4 交通事故をなくすために

交通事故をなくすために、わたしたちの周りで、どんな活動が行われているでしょう。



福山市は、1971年（昭和46年）3月に、交通事故をなくすために、「交通安全都市宣言」をしました。市は、警察や交通安全協会と協力して、交通事故をなくすように工夫しています。その一つに、交通指導員が小学校を訪問して行う「交通安全教室」があります。また、自転車の安全な乗り方を学ぶ体験学習を行っている学校も多くあります。

国道2号線や182号線は、特に通る車の数が多い所です。これらの国道沿いの小学校には、交通事故をなくすために活動する交通少年団を作っている所もあります。その他の地域でも、地域のボランティアの方が、子どもたちの登下校の見守り活動を行い、児童を交通事故から守ってくれています。



朝の通学の時、交通少年団の児童が活動しています。



地域の方が、子どもたちの登下校の安全を見守ってくれています。

警察の人たちは、交通事故だけでなく、わたしたちが安心して生活できるように、様々な場面でわたしたちの暮らしを守ってくれているよね。暮らしをより安全なものにするため、わたしたちにもできることがあるはずだよ。



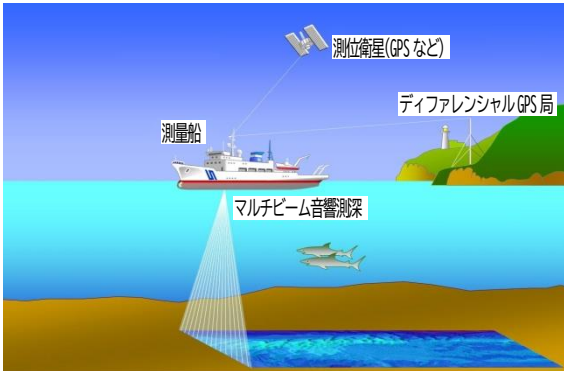
【海の安全を守る】

○ 福山海上保安署

瀬戸内海には多くの島々があり、その限られた場所を多くの船が往来^{おうらい}しています。そのため、広島に海上保安本部が置かれ、福山には海上保安署が置かれています。

船の交通事故が起こらないように航路標識の整備・管理をしたり、海の地図を作るための調査や気象・海象などの情報をインターネットなどで提供したりしています。

また、事故が起きたときには、118番通報を受け、救助活動^{かんきょう}を行ったり、海の環境を守るための取り締まり^しを行ったりするなどの仕事をしています。



〔海の地図を作るための調査〕



〔海の「もしも」は118番〕



〔救助の訓練〕



〔巡視船「あしかぜ」
じゆんしせん〕



〔灯台の点検・整備〕

